

自分らしく生きる

水戸市立第一中学校 三年

菊池七愛

「これは形も悪いし、小さくて売りものにならないから家で食べよう。」

そう言つてビニール袋いっぱいの野菜が私の家に届けられました。温暖な気候と、那珂川の豊かな水を利用し、広々とした畑で作られたトウモロコシはとても甘く、祖父母自慢の農作物です。しかし、このように形がいびつだからとか、出荷するには小さいからという理由で、商品価値をなくした選ばれないトウモロコシが毎日何十本と誕生しています。私は、食べたらお店に並ぶものと変わらない味

なのに、露骨に見た目による選別という洗礼を受けるトウモロコシと人間を重ね、ルツキズムの呪いは野菜にも浸透していることを感じました。

ルツキズムとは、外見を重視し、その外見を理由に人を

判断したり差別したりする考え方をすることです。このように見た目で判断することは、私たちの日常生活においてもよく遭遇し、見た目が良い外見を判断基準とし、あの子はかわいいという考え方の定着、メディアでも整ったルックの人ばかり多く取り上げられているように思います。特定の外見を理想とするイメージを繰り返し強調し、画一的な美の基準をつくりあげることで、その基準に該当する人、そうでない人に優劣をつけやすくし、こうした社会がルツキズムを加速させてしまつていてを感じました。

私は鏡を見て、その鏡に映る自分と、自分が思い描く理想の顔とを比較し落ち込んでしまうことがあります。きっとこうして私のように外見至上主義というルツキズムに直面し、不安やコンプレックスをかき立てられてしまい、他

人からの見た目で悩んでいる友達も多くいることでしょう。

人はみかけによらないという言葉があるように、私は人を外見で判断する人にはなりたくないと思つてきました。はじめて私に会う人からの第一印象として私も、

「怖そう。」

「真面目そうに見えるしつまらなさそう。」

と、言われることがあります。それが一緒に過ごす時間が増えていくにつれ、

「たくさん笑うんだね。それにおもしろい。」

と、イメージを変えていき、私と相手との仲は深まっています。一人の友達として向き合つてくれたからこそ会える私との距離が縮まるのも感じます。このように、人を見た目で判断し、こうだと決めつけるのではなく、お互いの内面を知ることで相手を好きになれるような関係を築いていくことが理想です。

今、私は自分のもつて生まれた身長や顔立ちではなく、表情やかもし出す雰囲気から他人に与える自分の印象を変えていかなくてはなりません。笑顔を大切にし、親しみやすくもつと話したいと思われるようなコミュニケーションを図り、相手に安心感を与えることができる人に。そして、



人からの評価ばかり気にせず、外見や目で見えるものだけがすべてではないという新しい視点で他者と向き合つてていきたいと思つています。「他人の目」のものさしで自分を評価したり、よく見せようとすることをやめ、「自分の目」で世界を感じ、受け入れ、「自分のものさし」でこうありたいと思うことを目標とし、行動できる大人になつていてたいと考えています。思春期の私は、悩んだり迷つたり、周りの目が気になり心が不安定になることがあります。しかし、私という人間はかけがえのない自分であり誰かと比べる必要はありません。過去の自分も今の自分も受け入れながら、私らしさを大切にし、内面から輝くことのできる人間になれるよう自信を持つて生活していきたいと思います。